

# 一般質問



※すべての質問を掲載しているわけではありません。  
詳しく知りたい方は、QRコードを読み取り、録画中継をご覧ください。

## 避難所の酷暑対策は

酷暑期の環境整備や運営  
体制も必要と考える

問

災害は季節を問わず、いつ発生するか予測が困難。近年の気候変動の影響で、防寒対策だけでなく酷暑対策も必要では。

答

町は指定避難所の酷暑対策として、体育館施設に早期の空調整備を検討している。電気式かガス式かなど、ランニングコストと災害体制の両面から慎重に比較検討を行い、必要な財源確保とあわせて整備を進める考えだ。

空調の導入は災害時の避難環境の向上だけでなく夏季の部活動、学校行事の継続的な実施や地域イベントの開催場所としての活用にも大きく貢献する。



藤岡 緑  
議員



問

避難所運営の整備はハード面のみならずソフト面も重要では。

答

熱中症リスクやプライバシー確保、生活衛生、食事提供体制など現在策定している「避難所運営マニュアル」の中で、夏季・冬季の対応方針を明確にしていこう考えだ。

災害発生時の避難は、原則徒歩だが、避難要配慮者の移動や待機時の安全確保のため、車の使用に関するルールも今後検討していく。また、福祉避難所や在宅避難者支援体制強化にも取り組む。

体育館の空調設備導入は大いに期待するが、コストもかかるので、小中学校等優先順位を付けて段階的整備を。



館内温度 33℃、個別テント内はもっと暑い。  
(9/7 北伊予小 体育館での訓練)